

## 1. 研究目的

飛び出す絵本やグリーティングカード等に施されている、紙で作られた仕掛けを研究し、既存の物に留まらない新たな表現とその応用方法の可能性を探る。

## 2. 調査と分析

紙の仕掛けを用いた物で一般的によく知られているのが「飛び出す絵本」と「ポップアップカード」である。どちらも二つ折りにした紙の間に仕掛け施している物で、「飛び出し」という仕掛けを主体に制作されており、折り畳まれた構造物を用途にあわせて変更する事により、様々な表現が可能であり調査の結果から以下の事が分かった。

- ・人を楽しませるエンターテイナー性
- ・子供から大人まで、絵本やメッセージカード
- ・紙という身近な素材である利点、応用の幅。

一部分ではあるが上記の利点分かり、同時に欠点も確認された。

- ・紙だけの仕掛けは出尽くし、限度もある。
- ・複雑すぎる仕掛けだとかさ張り、壊れやすい問題がある。
- ・単純な二つ折りが多く、表現に変化がない。

## 3. コンセプトの立案

調査、分析を元に「新しい表現」をコンセプトとして決定し、絵本やグリーティングカードだけでなく、様々な紙媒体に使用できる提案をする。

## 4. デザイン展開

上記を踏まえた上で、当初予定していた仕掛けその物の制作を取りやめ、台紙に着目し、制作を進めた。台紙のデザインを決定するにあたり、様々な用途に使用できる、汎用性があるカードを目指して様々な試作品を制作していく。

それら試作を経て「ぱたぱた」や「しかけ屏風」等の紙のからくりを参考にした「仕掛け」+「台紙」を採用した。台紙には全部で4つの紙面が繰り返し、いつまでも現れる仕掛けを取り入れ、二つ折りよりも紙面が増えたことにより用途の幅が広がり、紙面それぞれにポップアップを施す事が出来る物となっている。台紙そのものの形やサイズの変更も可能であり、自由度が高い物になっている。

今回は最終案として広告に台紙を応用したモデルを制作した。モデルには紙1枚の通常の広告に

は無い演出、表現として実寸の表記が可能で紙1枚の広告に比べ、実際に手に持てる大きさと感覚的に捉えやすく表現できた。そして、台紙の仕掛けとポップアップをあわせた商品の把握、厚みを立体的に再現しており、今までにない新しい表現になっている。

## 5. 完成図



## 6. 結論

20代から60代の多くの人に触れてもらい、どの世代でも「楽しい」「面白い」という感想を得られ、とくに商品の厚みの表現についても賞賛の言葉を頂き、コンセプトに適った物が出来たとと言える。

情報量に関しては、紙一枚の広告のように簡単に枚数や文字量を増加させる事が難しいため、情報量に限度はあるものの単品のコマースの場合には十分な情報を記載する事が可能であり、仕掛けも小型の媒体であるためメッセージカードはもちろん、パンフレットや名刺など様々な物に応用出来る可能性がある。

一方、問題点としてコストの増加が挙げられる。飛び出す絵本のように手作業が必要になれば相当なコスト増になってしまう。プレスによる打ち抜き、折りたたみ、接着など機械で出来るように最適化した物であれば通常の印刷物に比べてコストを抑えられる可能性があり、今後活かせるものになると感じた。

## 文献

- ・HIROKO(著),『ハンドメイドポップアップの本』,情報センター出版局,2007
- ・大石寛子,“手作り絵本作り方教室 飛び出す絵本とカード”, <http://www.picture-book.org/pop-ups/>, (参照2012-08)